

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	日本国憲法	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	浅野 博嗣
学科	こども保育科	授業	講義	総時間	30	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部	形態		(単位)	1	曜日・時間	火曜・3限
【授業の学習内容】 日本国憲法は、「みんなが幸せな社会生活を過ごす」ために、私たちが日本から世界にむけて示している理想です。日本国憲法の根底に流れる考え方、保証されている自由や権利、そしてそれらを確保するための国家の基本的なしくみについて説明します。どのようにしたら一人一人の個人が、互いに尊重される社会を作ることができるのかを考えます。 ※実務者経験：主業務は1994年8月より税理士事務所を開設し現在に至る。法学修士号、経営学修士号、調理師(旅館業も営む)、特化物作業主任等を持ち動物診療補助・獣医師補助もしながら、名古屋ECO(専)その他学校にて動物及び動物医療関連法規の講師を務める。他方、日本の中の生物生態の写真撮影を通して記録保存する活動もしている。							
【到達目標】 憲法とは何か、日本国憲法の役割、その成立過程を説明できるようになる。 また日本国憲法の基本原理を理解することにより、日本国憲法で保障されている自由・権利・義務とは何かを説明できるようになる。 さらに国会・内閣・裁判所の仕組みと役割、地方の自治の重要性などを説明できるようになる。 最終的には、子ども保育・教育を実践する上で、平和の重要性を認識し、基本的人権を尊重できる人になってもらう。							

授業計画・内容		
1回目	法律総論	
2回目	日本国憲法の制定	
3回目	国民主権と象徴天皇	
4回目	平和主義	
5回目	基本的人権	
6回目	国民の権利 1	
7回目	国民の権利 2	
8回目	国民の権利 3	
9回目	国民の権利 4	
10回目	国民の義務	
11回目	国会・内閣・裁判所の役割について 1	
12回目	国会・内閣・裁判所の役割について 2	
13回目	地方自治、その他	
14回目	試験	
15回目	試験直し	
準備学習 時間外学習	準備学習： ①各回の講義前に教科書の該当箇所を読んでおく。 ②当日の講義を復習する。	
評価方法	1. 定期試験（50％） 2. 小テスト（％） 3. レポート（50％） 4. 課題成果（％） 5. 実地試験（％）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格
受講生への メッセージ	魅力：日本国憲法は、一人一人の個人がお互いに尊重しあって生きていける上での一つの理想となります。 またこの理想は過去においていろいろな価値観の変化の中で議論が積み重ねられてきているものでもあります。 保育・教育の現場においても、自分自身の指針に迷ったときに、憲法は一つの道しるべとして方向性を提示してくれるものになります。	
【使用教科書・教材・参考書】 日本国憲法教科書、判例集及び新聞等資料		

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	職業人教育Ⅱ (Professionals EducationⅠ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	笹岡 駿貴
学科	こども保育科	授業	講義	総時間	60	開講区分	通年
コース	昼間Ⅰ部	形態		(単位)	(4)	曜日・時限	金曜・2限
【授業の学習内容】 ・実習、社会を見据えたキャリア教育、自己分析、成長課題の把握、プランの作成を学ぶ。 テーマに沿ったディスカッション・発表、レポート作成を中心に、様々な手法で社会人、職業人に向けた準備をしていく。 ◆実務者経験 笹岡 駿貴：これまで幼児から小学生までの体操教幼児サッカー・野球指導、学童保育指導員、部活動統括責任者（マネージメント業務） 放課後等デイサービスにて小中学生へのスポーツ療育指導等、子ども達へのコーチとして従事し、2024年より名古屋医健スポーツ専門学校こども保育科の専任教員として勤務。 【到達目標】 ・自主自立した職業人に大切な心構え・振る舞いを身につける。 ・次年度に向けた課題分析力、個々の強み、課題の向上。 ・多方面の視点から学びに活かす。							

授業計画・内容			
1回目	オリエンテーション	16回目	後期オリエンテーション
2回目	振り返り・社会人に向けて	17回目	後期プランニング・教育実習準備
3回目	経歴書の作成① ～自己分析～	18回目	教育実習準備
4回目	経歴書の作成② ～年単位のプランニング～	19回目	教育実習振り返り
5回目	シチュエーション別ローブレ① ～運動遊び～	20回目	調べ学習①
6回目	シチュエーション別ローブレ② ～安全面～	21回目	調べ学習②・課題発表会について
7回目	近大科目終末試験関係①	22回目	次年度の動きについて①
8回目	近大科目終末試験関係②	23回目	発表会準備
9回目	保育・教育実習に向けた職業人教育①	24回目	期末課題発表会① （前半）
10回目	保育・教育実習に向けた職業人教育②	25回目	期末課題発表会② （後半）
11回目	保育実習に向けたレクリエーション	26回目	振り返り・まとめ
12回目	実習振り返り・現状の課題把握	27回目	レクリエーション
13回目	教育実習に向けたプランニング	28回目	産学連携について①
14回目	実習伝達式	29回目	産学連携について②
15回目	特別講義	30回目	まとめ
準備学習 時間外学習	授業内で課題を出します。時間・スケジュール管理を徹底や自主学習の習慣を見につけていきましょう。		
評価方法	1. 授業内課題（60％） 2. 課題成果（40％）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生へのメッセージ	通年を通して大きく飛躍するチャンスです。課題に対しての取り組み、成果等、総合的に見て評価を付けていきます。今のご自身の強みや課題に素直に向き合い、一つずつ壁を乗り越えていきましょう！		
【使用教科書・教材・参考書】			
キャンパスノートや手帳など、メモが出来るもの1冊用意しておいてください。詳細はまたオリエンテーションでお伝えします。			

名古屋医健スポーツ専門学校 2023年度 シラバス

科目名 (英)	子ども家庭福祉	必修選択	必修	年次	2	担当教員	新沼英明
学科	こども保育科	授業形態	講義または演習	総時間	30	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部			(単位)	2	曜日・時間限	火曜4限
【授業の学習内容】 授業内容：保育士が接する子どもたちは、園で見せる姿が全てでしょうか。当たり前のことですが、家庭では別の様子が見られます。保育士になる皆さんには、園だけではなく、家庭で育つ子どもたちの背景、特に本科目では家庭に関わる福祉の体系的な理解が求められています。そこで本授業では、①現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷、②子どもの人権擁護、③子ども家庭福祉の制度と実施体系、④子ども家庭福祉の現状と課題、⑤子ども家庭福祉の動向と展望、以上5つのテーマを、皆さんのこれまでの生活者として得た知識や体験、昨年度の学びを結びつけながら授業展開できるよう心がけます。 実務者経験：社会福祉士として障害者福祉施設、行政のソーシャルワーカーとしての勤務経験があります。それらの業務に従事して得た知見や事例を通してなるべくわかりやすく社会福祉制度について解説したいと思います。							
【到達目標】 上述した①～⑤について説明できるようになること。 ◆態度・志向性の領域…①～⑤の知識や技能を踏まえて、保育士等の発達援助職に就く者として、どのように子どもや家庭に向き合うべきか考え、発達援助職に就いた後も「考えるための方法、視野」を身につけることができていること。							

授業計画・内容			
1回目	子ども家庭福祉の理念と概念		
2回目	子ども家庭福祉の歴史的変遷と諸外国の動向		
3回目	子どもの人権擁護		
4回目	子ども家庭福祉の制度と実施体制		
5回目	子ども家庭福祉の施設と専門職		
6回目	少子化と地域子育て支援		
7回目	母子保健と子どもの健全育成		
8回目	多様な保育ニーズへの対応①（子ども虐待・DVとその防止）		
9回目	多様な保育ニーズへの対応②（外国籍の子どもへの対応）		
10回目	多様な保育ニーズへの対応③（障害のある子どもへの対応）		
11回目	多様な保育ニーズへの対応④（貧困家庭への対応、社会的養護）		
12回目	多様な保育ニーズへの対応⑤（少年非行等への対応）		
13回目	次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進		
14回目	地域における連携・協働とネットワーク		
15回目	まとめと確認テスト		
準備学習時間外学習	予習として、授業で指示した用語などについて調べてくること（90分）。 復習として、授業内容の定着と深化を目的として、使用教科書の該当範囲を通読しておくこと（90分）。 合計60時間の準備学習が必要となります。		
評価方法	1，平常点（±20%） ※授業態度、レポート、課題等 2，定期試験（80%）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生へのメッセージ	子ども家庭福祉は保育士養成の核となる科目で、現代の子どもが置かれている背景や課題、子どもの権利や子どもの幸せを実現するための制度について広く理解します。		
【使用教科書・教材・参考書】 ＜教科書＞使用しません（毎回プリントを配布しますので、専用のファイルがあると良いと思います。） ＜参考書＞保育所保育指針			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	保育原理 (Childcare Principle)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	寺部 直子
学科	こども保育科	授業	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部	形態				曜日・時限	木曜3限
【授業の学習内容】 1.保育の意義及び目的(1)保育の理念と概念(2)子どもの最善の利益と保育(3)子ども家庭福祉と保育(4)保育の社会的役割と責任 2.保育に関する法令及び制度(1)子ども家庭福祉の法体系における保育の位置付けと関係法令(2)子ども・子育て支援新制度(3)保育の実施体系 3.保育所保育指針における保育の基本(1)保育所保育指針(2)保育所保育に関する基本原則(3)保育における養護(4)保育の目標(5)保育の内容(6)保育の環境・方法 (7)子どもの理解に基づく保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)とその循環 4.保育の思想と歴史の変遷(1)諸外国の保育の思想と歴史(2)日本の保育の思想と歴史 5.保育の現状と課題 (1) 諸外国の保育の現状 (2) 日本の保育の現場と課題 ＊実務者経験：1989年より2004年3月まで、私立中学・高等学校の講師・教諭。2010年より桜花学園大学、至学館大学、愛知学泉短期大学・名古屋文化学園保育専門学校等で、保育に関する科目を教える、また、2010年より現在に至るまで、特定非営利活動法人安城まちの学校の理事として、地域の小学生・未就学児および障がい者を対象にした体験学習講座のコーディネーターに従事。							
【到達目標】 ① 保育の意義及び目的について理解する：保育の意義（児童・保護者・社会についてそれぞれどのような意義があるか）と目的を理解し、他者に伝えられるようになる。 ② 保育に関する法令及び制度を理解する：現在の保育制度（新制度）について理解し、他者に伝えられるようになる。 ③ 保育所保育指針における保育の基本について理解する：保育所保育指針や他の法律等において、保育士という職業に求められていることがどんなことかを理解し、他者に正確に伝えられるようになる。 ④ 保育の思想と歴史の変遷について理解する：外国と日本の保育の思想と歴史の変遷にどのようなつながりがあるのかを理解し、他者に伝えられるようになる。 ⑤ 保育の現状と課題について考察する：保育の現状を知り、現在の課題は何かを理解し、今後どうあるべきか、特に自分なりに考えたことを他者に伝えることができるようになる。							

授業計画・内容			
1回目	保育の意義と目的について考え、自分なりの見解を得る。		
2回目	待機児童問題を通して、保育所の持つ役割とそれを果たす為の法的基準を理解する。		
3回目	待機児童問題を通して、子ども子育て新制度の概要を理解する。		
4回目	保育所保育指針を元に、保育の内容と方法の基本を理解する。		
5回目	保育の計画の重要性及び保育者の援助には様々な種類があることを理解する。		
6回目	近代以前と以後の子どもをとりまく環境、子ども観の変化について考え、保育の意義と目的について理解する。		
7回目	オーベルラン、ロバート・オーエンの保育施設について学び、保育施設、保育制度の目指すものを理解する。		
8回目	フレーベルのキンダーガルテンについて学び、遊びを通した保育の始まりについて理解する。		
9回目	わが国の幼稚園の始まりとその発展について理解する。		
10回目	わが国の保育所の始まりとその発展について理解する。		
11回目	戦前の保育施設の状況とその問題点について理解する。		
12回目	戦後の幼稚園と保育所の法的整備の過程を学び、それぞれの法について理解する。		
13回目	平成以降の保育制度の変遷について理解する。		
14回目	現在の保育制度の課題について理解する。自分の地域の課題を調べる。		
15回目	試験とその解説		
準備学習 時間外学習	準備学習：前回の講義で講師より提示された課題について調べたり、自分の考えをまとめたりする。 時間外学習：毎回の小テストに備え、学んだことを復習する。小テストの後、わからなかったことについて復習する。		
評価方法	1. 定期試験（60％） 2. 小テスト（20％） 3. レポート（20％） 4. 課題成果（0％） 5. 実地試験（0％）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ	「保育士って子どもと遊んでるだけの簡単な仕事でいいね」と言ってくる何も知らない人たちに、保育士の仕事が、子どもと遊んでいるだけではないこと、簡単ではないけれどもいい仕事、大切な仕事ではあること、を、やさしく、理路整然と説明し、わかってもらって、さらに、子ども子育て新制度についても、わかってもらって、現在の保育所・保育士が抱える問題の解決のために一緒に頑張ってもらえるようになること、そういう人たちを増やしていけるようになることを目標に講義をします。応援してくれる人を増やせるようにしっかり学んでいきましょう！		
【使用教科書・教材・参考書】 『保育原理』（近大発行）『保育所保育指針』（フレーベル館）			

名古屋医健スポーツ専門学校 2024年度 シラバス

科目名 (英)	子ども家庭支援論	必修選 択	必須	年次	2	担当教員	新沼英明
学科	こども保育科	授業形 態	講義 または 演習	総時間	30	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部			(単位)	2	曜日・時 限	金曜 1限
【授業の学習内容】 授業内容：本科目では、前期の「子ども家庭福祉」を踏まえ、子育て支援に関わる理解が求められています。そこで本授業では、 ①子ども家庭支援の意義と役割、②保育士による子ども家庭支援の意義と基本、③子育て家庭に対する支援の体制、④多様な支援 の展開と関係機関との連携、以上4つのテーマを、皆様の経験や知識と結び付けながら、授業を展開していきます。 実務者経験：社会福祉士として障害者福祉施設、行政のソーシャルワーカーとしての勤務経験があります。それらの業務に従事し て得た知見や実例を通してなるべくわかりやすく社会福祉制度について解説したいと思います。							
【到達目標】 上述した①～④について説明できるようになること。 ◆態度・志向性の領域…①～④の知識や技能を踏まえて、保育士等の発達援助職に就く者として、どのように子どもや家庭に向き合 うべきか考え、発達援助職に就いた後も「考えるための方法、視野」を身につけることができていること。							

授業計画・内容		
1回目	子ども家庭支援の意義と必要性	
2回目	子ども家庭支援の目的と機能	
3回目	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進	
4回目	子育て家庭の福祉を図るための社会資源	
5回目	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義	
6回目	子どもの育ちの喜びの共有	
7回目	保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援	
8回目	保育士に求められる基本的態度／家庭の状況に応じた支援	
9回目	地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力	
10回目	子ども家庭支援の内容と対象	
11回目	保育所等を利用する子どもの家庭への支援	
12回目	地域の子育て家庭への支援	
13回目	要保護児童およびその家庭に対する支援	
14回目	子育て支援に関する課題と展望	
15回目	まとめと確認テスト	
準備学習時間 外学習	予習として、授業で指示した用語などについて調べてくること（90分）。 復習として、授業内容の定着と深化を目的として、使用教科書の該当範囲を通読しておくこと（90分）。 合計60時間の準備学習が必要となります。	
評価方法	1、平常点（±20％） ※授業態度、レポート、 課題 等 2、定期試験（80％）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格
受講生への メッ セージ	保育士の大事な仕事のひとつに「保護者支援」があります。保護者支援は単に保護者の相談にのることだけではなく、保護者がおかれた様々は背景を理解することが必要です。この授業では現代の子育て家庭が置かれている現状や課題について広い視野で理解してほしいと思います。	
【使用教科書・教材・参考書】 〈教科書〉使用しません（毎回プリントを用意しますので専用のファイルがあると良いと思います）。		

科目名 (英)	子どもの食と栄養 (Food and nutrition of children)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	武田 康代
学科	こども保育科	授業形態	講義または 演習	総時間	15	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部			(単位)	1	曜日・時限	金曜・4限
【授業の学習内容】 授業内容：こどもの成長に必要な基本的な栄養素について修得し、各ライフステージ別の食事のあり方について理解を深める。5大栄養素については、各栄養素の生理的な役割と、多く含まれる食品分類を説明できるようにする。食事内容を3色食品群、6つの基礎食品、食事バランスガイドなどのツールを使い評価判定ができ、その内容を子どもたちにわかりやすく伝えることができるようにする。こどもの健康を維持し、食べることを楽しみ、「食べる力」を育む支援ができる保育士の養成を目指す。 実務者経験：1985年4月～1989年3月まで知的障害者更生施設 管理栄養士。2012年～高齢者ディサービス・多機能型事業所（生活介護・児童発達支援事業）チーフマネージャー。							
【到達目標】 こどもの発育・発達と食生活の関連について、栄養の基礎知識を踏まえ理解を高めることを目標とする。 健康な生活の基本として、こどもの食と栄養の意義や食育のための環境について修得する。 （１）健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する内容を説明できる。 （２）こどもの発育・発達と食生活の関連について説明することができる。 （３）食育について、こどもたちに対してどのように展開していくかを工夫することができる。							
授業計画・内容							
1回目	栄養に関する基礎知識 （目標）5大栄養素・3色食品群・食事バランスガイド・日本人の食事摂取基準について説明できる。						
2回目	乳児期の食生活（目標）乳児期の授乳・離乳の意義 安全な調乳の手法について説明できる。						
3回目	妊娠期と授乳期の食生活（目標）母体の健康と胎児や乳児の発育に栄養管理を行う必要があることを説明できる。						
4回目	「授乳・離乳の支援ガイド」離乳食の進め方の目安の理解(目標)咀嚼機能の発達について説明できる。						
5回目	幼児期の発育・発達と食生活（目標）食事の形態や食卓環境などの配慮を習得し、説明できる。						
6回目	学童期・思春期の発育・発達と食生活（目標）学校・家庭・地域における食育を通じた、食の自己管理能力の形成の重要性を説明できる。						
7回目	アレルギー疾患をもつこどもの食と栄養（目標）保育所での食物アレルギー対応に関して説明できる。						
8回目	食育の基本と内容（目標）「食を営む力」の育成に向け、その基礎を培うことを理解し、保育の一環としての食育の実践を説明できる。「食育だより」を完成させ子どもだけでなく、保護者への食育についてもその必要性を理解する。						
9回目							
10回目							
11回目							
12回目							
13回目							
14回目							
15回目							
準備学習時間外学習	初回到食育演習ノートを配布する。テキストの各項目の重要箇所についてまとめ、説明できるようにする。前日に食べたものを書き出し、自分自身の食事に関して評価判定をする機会をもつ。授業内容の理解できなかったところや、苦手な内容は積極的に質問すること。授業内容のポイントをおさえ、食育演習ノートに随時書き込み、充実したノートの作成を心掛ける。						
評価方法	食育演習ノート30％ レポート20％ 筆記試験50％	評価方法はGPA制度となります 1.00～9.0点 S 8.9～8.0点 A 7.9～7.0点 B 6.9～6.0点 C 5.9点以下 F 不合格					
受講生へのメッセージ	栄養、食品、食育に関するニュースや新聞記事に関心を持つこと。自分らしい食生活を実現し、健やかな食文化の担い手になることを心がける。各授業ごとにおける準備学習や授業後の振り返りに関して、積極的に取り組むこと。						
【使用教科書・教材・参考書】 『新 保育ライブラリ 子どもの食と栄養』（北大路書房） 参考書：『子どもの食と栄養』（羊土社） 『子どもの食と栄養』（中山書店） 『授乳・離乳の支援ガイドにそった離乳食』（芽ばえ社）							

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	子どもの保健	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	沼倉 聖子
学科	こども保育科	授業 形態	講義 または演習	総時間 (単位)	30 1	開講区分	
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	不定期

【授業の学習内容】

保育士として子どもの健康を保持増進する力を養成することを目的に講義および演習を行う。担当教員の看護師・助産師・保健師経験から保育現場において必要な知識や疾病、外傷に対してより適切に対応できるための力を養う講義内容とするとともに、保育士・親役をロールプレイすることで、保育士としての実践力を身につける。

【到達目標】

- 1) 子ども成長発達の基本を理解したうえで、子どもの成長発達を見守る力を養う。
- 2) 子どもの健康増進を目指す保健活動を行うための基礎的知識を習得する。
- 3) 子どもの運動・精神の発達を理解し、子どもや保護者に必要な支援を考える力を養う。
- 4) 保育現場で、子どもたちの疾病や外傷に対して、迅速かつ適切な処置が行うための基礎的知識を習得する。
- 5) 子どもの安全を守るための保育士としての責務を認識する。

授業計画・内容

1回目	WHOの健康の定義から子どもの健康を脅かす要因について説明できる。		
2回目	子どもの健康を脅かす要因を予防・改善するための方法について討議できる。		
3回目	日本の小児保健水準を理解し、母子保健の重要性が理解できる。		
4回目	身体発育の原則を理解し、身体発育値を評価できる。乳幼児健診について理解できる。		
5回目	生理機能の発達とそれらが阻害された場合の症状について理解できる。		
6回目	生理機能の発達と保健について理解できる。		
7回目	運動機能の発達について理解できる。		
8回目	精神機能の発達について理解できる。		
9回目	グループワーク：運動・精神機能の発達に遅れのある事例を用いて、どのように発達を伸ばすか考え、まとめ		
10回目	10回目の事例を用いて、保育士役と親役になり、子どもについての情報共有や今後の支援についてロールプレ		
11回目	感染症と予防接種について理解できる。		
12回目	感染症に対する対処方法と正しい手洗い方法、消毒方法が理解できる		
13回目	子どもの体調不良時の対応が理解できる。外傷に対する対応が理解できる。		
14回目	慢性疾患や障害を持つ子どもに対する保育の留意点が理解できる。		
15回目	まとめ		
準備学習 時間外学習	・1回目授業の事前準備は不要です。2回目以降はその都度必要な準備学習をお伝えします。		
評価方法	1. 定期試験（80%） 2. レポート提出 （20%）	評価方法はG P A制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ	子どもの生命に関わる重要な知識を多く取り扱う必須科目です。皆さんと一緒に考えながら、子どもにとっての健康、そしてその健康を守るためにはなにが必要かを考えていき、皆さんが保育士となった時に役立つ授業内容にしたいと思います		
【使用教科書・教材・参考書】 よくわかる子どもの保健 第4版			

イを行う。

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	保育の心理学	必修選 択	必修	年次	2	担当教員	松永 侑大
学科	こども保育科	授業形 態	講義	総時間	30	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部		または演 習	(単位)	2	曜日・時 限	水曜日

【授業の学習内容】

子どもの発達(発達心理学)を理解することは、子どもの支援において欠かすことのできない重要な要素となります。本授業では、教科書に準拠しながら、子どもの発達および発達に伴う心理状態について学び、子どもについての理解を深めたり、子どもの支援に役立つ方法論などを学びます。また、教科書のどこに何が書いてあるかを理解し、ずっと使える教科書にすることをねらいます。

実務者経験：2021年に臨床心理士、2022年に公認心理師を取得。2021年より児童発達支援事業所にて発達障害を抱える子どもに対する小集団での支援、保護者支援、職員間のコンサルテーションを務めている。

【到達目標】

発達心理学を中心に、人間の発達についての知識を習得する。心理学的知識を用い、実践でより適切な支援ができるようになる。
教科書の内容をおおむね理解する

授業計画・内容

1回目	第一章「発達を学ぶ意義」と第二章「子どもの発達と環境」
2回目	第三章「発達理論と子ども観・保育観」
3回目	第四章「身体と運動機能の発育・発達」
4回目	第五章「発達を支えるアタッチメント」
5回目	第六章「自己と感情・情動の発達」
6回目	第七章「社会性の発達」
7回目	第八章「認知の発達」
8回目	第九章「言語の発達」
9回目	第十章「発達障害と発達」
10回目	第十一章「虐待から考える発達」
11回目	第十二章「保育にいかす学習理論」
12回目	第十三章「遊びの発達」
13回目	第十四章「乳幼児期の学びの過程と特性」
14回目	第十五章「乳幼児期の学びを支える保育」
15回目	試験

準備学習時間外
学習 教科書を眺めておいてください

評価方法	感想用紙・小レポート：30％ 定期試験：70％ 上記の割合で成績評価を行う。	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	毎回の授業の終了時に感想用紙の提出を求め、授業の理解度をチェックする。定期テストにて知識及びその応用についての到達評価を行う。
------	--	---	---

受講生へのメッセージ
心はすべての人が当事者です。単純に見える子どもの発達や人生初期の心にも、専門的な説明でないと理解ができないことがあります。そういったものを学んでいきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

参考書：無藤 隆・岡本 祐子・大坪 治彦：よくわかる発達心理学, ミネルヴァ書房
その他必要に応じて授業内で紹介をしていきます。

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	教育相談 (Education consultation)	必修選 択	必修	年次	2	担当教員	松永 侑大
学科	こども保育科	授業形 態	講義	総時間	30	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部			(単位)	2	曜日・時 限	水曜 3限

【授業の学習内容】

授業内容：本授業では、保育士を代表とする、こどもに関わる職業に必要な心理学的な知見や技術を学ぶ。
 実務者経験：2021年に臨床心理士、2022年に公認心理師を取得。2021年より児童発達支援事業所にて発達障害を抱える子どもに対する小集団での支援、保護者支援、職員間のコンサルテーションを務めている。

【到達目標】

子どもの発達、こどもを取り巻く環境について全般的に理解し、発達の遅れや障害、その他の様々な困難について知見を広め、対応することができるようになること。また、保護者に対する対応について望ましいことや、どういったことがニーズとされているのかを理解するとともに、子どもにも保護者にも寄り添う振る舞いをカウンセリングの知識を通して行うことができるようになること。

授業計画・内容			
1回目	オリエンテーション、子どもにまつわる現状、教育相談について		
2回目	子どもの発達に関する心理学的理論(おおまかな発達理論について)		
3回目	子どもの発達に関する心理学的理論(発達に関する困難について)		
4回目	子どもの発達に関する心理学的理論(具体的な困難・対応について)		
5回目	保護者への支援について(子どもと保護者の心理学的な関係について)		
6回目	保護者への支援について(保護者の困難について)		
7回目	保護者への支援について(保護者の具体的な困難・対応について)		
8回目	カウンセリングの技法について(基本的な知識・技術について)		
9回目	カウンセリングの技法について(具体的な状況について)		
10回目	カウンセリングの技法を用いた具体的な状況の想定		
11回目	子どもの発達支援に関する社会的資源・連携について(知識面)		
12回目	子どもの発達支援に関する社会的資源・連携について(対応面)		
13回目	これまでの授業を踏まえた具体的な場面の想定やディスカッション		
14回目	これまでの授業を踏まえた具体的な場面の想定やディスカッション		
15回目	試験と振り返り		
準備学習時間 外学習	テキストの復習、授業中に知ったことをヒントに、日常に探してみる		
評価方法	1.定期試験	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
	2.レポート		
受講生へのメッセージ	子どもや保護者に関わる仕事をする際に、気を付けておかなければならないことは多くあります。本授業でそういった気遣いを学べるとよいかなと思います。また、心はみんなが当事者ですので、ぜひ授業の内容をヒントに、日常を振り返ってみたり、考えたりしてみてください。		
【使用教科書・教材・参考書】			
子育てカウンセリング～幼稚園・保育所で行う保護者の心のサポート～(図書文化)			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	乳児保育Ⅰ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	坂野 琴未
学科	こども保育科	授業 形態	講義/ 演習	総時間	30	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部			(単位)	1	曜日・時限	金曜 2限
【授業の学習内容】							
・歴史的変遷や社会的背景から乳児保育の必要性を学ぶ。 ・乳児保育に携わる保育者が、保護者や社会に求められる役割を学ぶ。 ・各自自治体が運営する乳児保育の施設や事業について、特徴や課題を知る。 ・保育所保育の特性である「発達の過程」、「体験と遊び」、養護的な役割である「援助の実際」を理解する。							
実務者経験:私立幼稚園・保育園にて勤務。幼児教育について学んだ経験を活かし、保育士養成校にて学生教育にあたっていた。							
【到達目標】							
・乳児特有の発達的特徴を理解し、保育の楽しみ、面白味、醍醐味を味わいながら、実践力を養う。 ・子どもや保護者一人ひとりに対して「よりよい対応」を考えようとする温かく積極的な姿勢を身につける。							

授業計画・内容			
1回目	オリエンテーション/妊婦体験 乳児保育はなぜ必要か歴史的変遷や社会背景から考える		
2回目	母親などの養育者との関係と子どもの心の育ちについて考察する/親子のふれあいあそび		
3回目	ことばの発達過程と保育者の関わりについてまとめる①		
4回目	ことばの発達過程と保育者の関わりについてまとめる②		
5回目	かみつきなどのトラブルについて園と家庭の両面からの関わりを考察する		
6回目	園でのトラブルについてロールプレイで学ぶ		
7回目	各自治体が運営する保育事業を知り、特徴や課題を調べる①		
8回目	各自治体が運営する保育事業を知り、特徴や課題を調べる②		
9回目	認定こども園の機能や導入の背景をまとめる		
10回目	保育所における「複数担任制」による保育者同士の連携のあり方を学ぶ		
11回目	乳児保育における安全管理を学ぶ		
12回目	乳児クラスにおける保育者同士の連携について学ぶ		
13回目	自我の芽生えから見る心の成長を理解する		
14回目	試験対策		
15回目	試験		
準備学習 時間外学習	日常的にインターネットやテレビで保育に関わるニュースに着目してください。2年次で使用した資料は、3年次のスクーリングで活用します。大切に保管し、復習してください。		
評価方法	1. 授業態度(50%) 2. 筆記テスト/課題提出(50%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	
受講生への メッセージ	言葉によるコミュニケーションが取りづらい乳児さんとの関わりは戸惑いがあるかもしれませんが。私も実習生の頃は同じ気持ちでした。保育所実習を通して課題に感じたこと、喜びに感じたことを共有しながら乳児保育の醍醐味を知ってもらえればと思います。		
【使用教科書・教材・参考書】 志村聡子編著 『はじめて学ぶ乳児保育 第3版』 同文書院			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	教育実習Ⅰ (Teaching PracticeⅠ)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	櫛田 英代
学科	こども保育科	授業形態	実習	総時間	80	開講区分	集中
コース	昼間Ⅰ部			(単位)	(2)	曜日・時限	

【授業の学習内容】

専門教育科目で獲得した幼児教育に関する知識、技能を活用しながら、実践的指導力を体験的に総合的に高めていくことを目標とする。この目標を達成するために第1回（2週間）の実習では、観察・参加実習、部分実習を主とする実習を行うこととする。

実務者経験：これまでに、国内外の保育施設において乳児から幼児期の子どもの保育・教育に携わってきた。

また、保育者養成校においても、常勤職員として教育・実習指導の経験を持つ。

【到達目標】

- ・ 幼稚園における教育内容や幼稚園の機能について、体験を通して理解する。
- ・ 幼稚園教諭の職務および役割について、体験を通して理解する。
- ・ 幼稚園での1日の教育活動を振り返り、観察記録を作成することができる。
- ・ 部分実習または、全日実習の指導計画を立案することができる。

授業計画・内容			
1回目	< 幼稚園実習(1回目)> 以下のような観察視点から幼稚園においてどのような活動が、どのような方法で行われているかを把握することに努める。 ①幼稚園における 1 日の生活・活動の流れと生活・活動内容の概要 ②遊び・生活場面での園児の行動 ③園児の行動に対する幼稚園教諭の対応		
2回目			
3回目			
4回目			
5回目			
6回目			
7回目			
8回目			
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
準備学習時間外学習	・ 実習で使用する手遊び、歌あそび、ゲームなどのレパートリーを増やしていきましょう。 ・ 配属クラスの年齢に応じた指導計画案を作成しましょう。 ・ 実習後の授業、保育実習、就職活動、さらに就職後の活動に向けた課題が鮮明になるような事後レポートを作成しましょう。		
評価方法	1. 実習日誌mの記述内容50 (%) 2. 指導計画の記述内容 30 (%) 3. 実習園による評価 20(%)	評価方法はG P A制度となります 1 0 0 ～ 9 0 点 S 8 9 ～ 8 0 点 A 7 9 ～ 7 0 点 B 6 9 ～ 6 0 点 C 5 9 点以下 F 不合格	
受講生へのメッセージ	参加実習では、指導教諭の指導と助言を受けながら、教育活動や園務に積極的に参加しましょう。		
【使用教科書・教材・参考書】 「教育実習事前指導」			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	保育実習Ⅰ（保育所） (Childcare TrainingⅠ) (nursery)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	榎田 英代
学科	こども保育科	授業形態	実習	総時間	80	開講区分	集中
コース	昼間Ⅰ部			(単位)	(2)	曜日・時限	

【授業の学習内容】

「保育実習」は、保育士資格を取得するために児童福祉施設で行う実習である。10日間の実習で、次の内容を体験的に学ぶ。

- ①保育所における1日の流れ ②子どもへの理解を深める ③保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ
④保育所等の技術や記録方法について実践的に学ぶ ⑤保育士を志すものとして自覚を高める

実務者経験：これまでに、国内外の保育施設において乳児から幼児期の子どもの保育・教育に携わってきた。

また、保育者養成校においても、常勤職員として教育・実習指導の経験を持つ。

【到達目標】

- ・保育現場で保育を経験することにより、これなで学習してきた理論や技術が、保育の自薦と具体的にどのように繋がるか理解することができる。
- ・実践を通じて、保育の技術、能力を向上させる。
- ・自分なりの保育観や子ども観を深め確立する。

授業計画・内容

1回目	<保育所実習(1回目)> 保育実習Ⅰの「保育所実習」では、以下の観点から保育所における保育がどのようになされているかを理解する。 1. 保育所の内容、機能について理解する。（保育所の1日の流れやプログラムの理解など） 2. 保育所における子どもの理解。（年齢・月齢ごとの子どもの発達とその特徴など） 3. 保育所における保育者の職務内容、役割などを理解する。 4. 日誌や指導案の書き方を学ぶ。										
2回目											
3回目											
4回目											
5回目											
6回目											
7回目											
8回目											
9回目											
10回目											
11回目											
12回目											
13回目											
14回目											
15回目											
準備学習時間外学習	・手遊び、歌遊び、絵本の読み聞かせなどの教材や設定保育など保育実習に向けた準備をしましょう。 ・各自の実習のねらい、課題を明確にしましょう。 ・実習後の日誌作成のまとめと、実習の反省と課題を明確にしましょう。										
評価方法	<table><tr><td>1. 実習日誌・事後レポートなどの提出物50（％）</td><td>100～90点 S</td></tr><tr><td>2. 実習施設の評価30（％）</td><td>89～80点 A</td></tr><tr><td>3. 勤務状況等20(％)</td><td>79～70点 B</td></tr><tr><td></td><td>69～60点 C</td></tr><tr><td></td><td>59点以下 F 不合格</td></tr></table>	1. 実習日誌・事後レポートなどの提出物50（％）	100～90点 S	2. 実習施設の評価30（％）	89～80点 A	3. 勤務状況等20(％)	79～70点 B		69～60点 C		59点以下 F 不合格
1. 実習日誌・事後レポートなどの提出物50（％）	100～90点 S										
2. 実習施設の評価30（％）	89～80点 A										
3. 勤務状況等20(％)	79～70点 B										
	69～60点 C										
	59点以下 F 不合格										
受講生へのメッセージ	担当保育者の指導や助言に従い、積極的に保育実習に参加しましょう。										

【使用教科書・教材・参考書】

石橋裕子他編『新訂 知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド 第2版』同文書林 2018年

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	ピアノ基礎Ⅱ (Basic Piano Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	古田 直子
学科	こども保育科	授業	演習	総時間	60	開講区分	通年
コース	昼間Ⅰ部	形態		(単位)	4	曜日・時限	木曜4限
【授業の学習内容】 ピアノ基礎Ⅰに引き続き、ピアノおよび弾き歌いの基礎的な技術を習得する。楽典の復習に加え、コード伴奏について学ぶ。季節の歌や行事の歌、生活の歌を取り入れ、多くの歌を覚えるとともに声を出す習慣をつける。 実務者経験：大学、短期大学の保育者・教員養成課程にて20年以上にわたり歌唱やピアノを指導、歌唱に関する研究を行う。また、小学校や中学校にて音楽講師を務めた。							
【到達目標】 ・ピアノの基礎的な演奏技術を身につける。 ・簡易伴奏のためのコードネームについて理解することができる。 ・子どもの歌の弾き歌いのレパートリーを増やす。 ・ミュージックベルを扱うことができる。 ・子どもの歌唱活動を豊かにするための遊び歌を実践することができる。							

授業計画・内容					
1回目	授業の目的と学習内容の説明		16回目	授業の目的と学習内容の説明／教育実習の課題	
2回目	楽典の復習／ピアノ演奏技術		17回目	歌唱法／教育実習の課題	
3回目	楽典の復習／ピアノ演奏技術		18回目	歌唱法／教育実習の課題	
4回目	楽典の復習／ピアノ演奏技術		19回目	歌唱法／教育実習の課題	
5回目	年中行事の歌について／子どもの歌の弾き歌い		20回目	教育実習の振り返り／コードネームと簡易伴奏法	
6回目	学習曲について調べる／子どもの歌の弾き歌い		21回目	コードネーム(ハ長調)／コード伴奏の実践	
7回目	学習曲について調べる／子どもの歌の弾き歌い		22回目	コードネーム(ヘ長調)／コード伴奏の実践	
8回目	歌唱表現活動(手遊び歌)／子どもの歌の弾き歌い		23回目	コードネーム(ト長調)／コード伴奏の実践	
9回目	歌唱表現活動(わらべ歌)／子どもの歌の弾き歌い		24回目	コードネーム(ニ長調)／コード伴奏の実践	
10回目	ミュージックベル／ピアノ演奏技術		25回目	コード伴奏課題曲の練習	
11回目	ミュージックベル／ピアノ演奏技術		26回目	コード伴奏の小テスト	
12回目	ミュージックベル／子どもの歌の弾き歌い		27回目	季節・行事の歌／子どもの歌の弾き歌い	
13回目	ミュージックベル／子どもの歌の弾き歌い		28回目	季節・行事の歌／子どもの歌の弾き歌い	
14回目	発表①子どもの歌の弾き歌い		29回目	季節・行事の歌／子どもの歌の弾き歌い	
15回目	発表②ピアノ演奏		30回目	子どもの歌の弾き歌いの発表	
準備学習 時間外学習	・ レッスン時間は限られています。毎週1時間を目安に授業外での練習に取り組みましょう。 ・ 休暇中も計画的に課題を進めてください。				
評価方法	・ 発表、小テスト 70% ・ 平常点(取り組み、出席等) 30%	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格			
受講生への メッセージ	子どもの歌のレパートリーを増やしていくためには、弾き込むことが大切です。予習や復習を重ねて自分のものにしましょう。 分からないことがあれば気軽に質問・相談してください。				
【使用教科書・教材・参考書】					
1. 近畿大学九州短期大学 音楽 ピアノ教本滋慶教育科学研究所					
2. 保育士・幼稚園教諭のための実践音楽教本（ピアノ曲集編）					
3. ドレミ楽譜出版社 子どものうた村 保育の木					
4. ドレミ楽譜出版社 みんなで手遊び One・Two・トン					

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	保育教材研究Ⅱ (Educational materials for childcareⅡ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	櫛田 英代
学科	こども保育科	授業 形態	演習	総時間	60	開講区分	通年
コース	昼間Ⅰ部			(単位)	(4)	曜日・時限	前期：金曜4限 後期：金曜3限
【授業の学習内容】 実習や就職後も使えるような保育教材づくりに取り組みます。 また、技法を使った季節の製作や行事で使用する製作について考え、製作を通した保育の環境作りの大切さを学びます。 幼児の発達と表現の意味を理解し、子どもと共に楽しめる造形活動を考え、環境構成を工夫したりできる力を身につけることをねらいとしています。 実務者経験 これまで幼稚園・保育所にて乳児から幼児までの保育経験、保育士養成校にて学生教育にあたっていた。							
【到達目標】 保育現場において、子どもの発達と表現の意味を理解することから、相応しい教材を知り、身近な素材を使った制作や実践を通して保育力の基礎を習得できる。子どもは遊びの中で、気付きや発見を繰り返している。子どもが造形表現を通して自ら発見し、成長できる機会を与えられる保育者を目指す。							

授業計画・内容				
1回目	オリエンテーション		16回目	季節の手作り玩具と行事の意味を考える
2回目	クラス製作〈目標を立てて計画的に進めることができる〉		17回目	幼児向け遊びの計画〈実習に向けて年齢ごとの製作の姿をイメージし、計画を立てる〉
3回目	季節の製作①〈乳児期の発達に合わせた製作を知る〉		18回目	幼児向け遊びの実践〈実習に向けて年齢ごとの製作の姿をイメージし、準備をする〉
4回目	季節の製作①〈乳児期の発達に合わせた製作を実践する〉		19回目	実習製作レポートの作成〈実習園での製作風景を振り返る〉
5回目	夏祭り計画〈子どもが参加する夏祭りの楽しみ方について知る〉		20回目	実習製作レポートの作成〈実習園での製作風景を振り返る〉
6回目	夏祭り準備		21回目	実習製作レポートの作成〈実習園での製作風景を振り返る〉
7回目	季節の製作②〈幼児期の発達に合わせた製作を知る〉		22回目	実習製作レポートの発表〈実習園での製作風景を共有できる〉
8回目	季節の製作②〈幼児期の発達に合わせた製作を実践する〉		23回目	季節の製作③〈製作の目的を理解し、計画を立てる〉
9回目	夏祭り準備		24回目	季節の製作③〈製作物を展示した際の子どもの達成感を知ることができる〉
10回目	夏祭り運営〈子どもが安全に楽しく参加できるように運営する〉		25回目	発達段階に合わせた製作遊びと指導案作成〈実践力を身につける〉
11回目	年齢別の製作あそび計画〈年齢ごとの製作の姿をイメージし、計画する〉		26回目	発達段階に合わせた製作遊びと指導案作成〈実践力を身につける〉
12回目	年齢別の製作あそび〈年齢ごとの製作の姿をイメージできる〉		27回目	発達段階に合わせた製作遊びの実践〈実践、フィードバックを行う〉
13回目	年齢別の製作あそび実践〈実践、フィードバックを行う〉		28回目	保育環境整備〈子どもの目線や導線を考えた環境整備を計画する〉
14回目	季節の手作り玩具〈発達課題にあった手作り玩具を考える〉		29回目	保育環境整備〈子どもの目線や導線を考え、必要であれば製作を行う〉
15回目	季節の手作り玩具〈発達課題にあった手作り玩具を作成する〉		30回目	保育環境整備発表
準備学習時間外学習	製作にあたっては常に子どもの発達段階に合わせたねらいが必要になってきます。保育所指針、幼稚園教育要領、幼保認定こども園教育・保育要領を読む習慣をつけること。実習のねらいや内容を立てる際に役立ちます。 授業時間内に製作が終わらない場合には、各自発表日までに仕上げてもらいます。見通しを持って製作の計画を立て、効率よく製作にとりかかりましょう。			
評価方法	1. 出席（50％） 2. 課題成果（50％）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格		
受講生へのメッセージ	保育教材研究Ⅰで学んだ保育教材の基礎をもとに応用として自らの保育の引き出しを増やしていきましょう。引き出しをたくさん作っておくことは実習や就職後に役立ち、自信に繋がります。この授業で実践したことや製作したものを現場に出て、たくさん活用してってください。また、保育現場では時間内に数々の業務をこなさなければなりません。製作や教材準備を効率的に要領よく進めることができるような保育者になりましょう。			
【使用教科書・教材・参考書】 必要な物は授業でお知らせします。				

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	ふれあい実習Ⅱ (Friendship TrainingⅡ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	櫛田 英代
学科	こども保育科	授業	演習	総時間	60	開講区分	通年
コース	昼間Ⅰ部	形態		(単位)	(4)	曜日・時限	前期：水曜2限 後期：金曜3限
【授業の学習内容】 子どもとのふれあい遊びを通した保育の中で、音楽あそび、工作あそび、レクリエーション、出し物などのテーマを決め、実践をする。 実践は、学内にとどまらず、保育園や幼稚園の見学、外部のボランティア実習等も設定し参加していく。 また、保育実習・教育実習の事前指導・事後指導を行い、実習生としての心構えを習得する。 実務者経験 これまで幼稚園・保育所にて乳児から幼児までの保育経験、保育士養成校にて学生教育にあたっていた。							
【到達目標】 ・子どもとのふれあい、実際の保育を体験していく中で、座学で学んだことを実践できるようになる。 ・子どもの発達に合わせたあそびを考え、保育実践に役立てることができる。 ・子どもと交流ができるイベント等の企画を自分で考え、実践できるようになる。 ・実習生としての心構えを身につけ、主体的に実習に取り組むことができるようになる。							

授業計画・内容			
1回目	オリエンテーション、子育て支援センターの概要、乳児の特徴を知る	16回目	オリエンテーション、履修カルテの作成〈目標を持って実習に臨むことができるようにする〉
2回目	園外保育実践準備〈実習計画を検討し、準備することができる〉	17回目	教育実習準備〈教育実習のねらいを理解する/必要書類を作成する〉
3回目	園外実践保育参加〈保育実践として実習を行う〉	18回目	教育実習振り返り〈実習を振り返り、気づきを得ることができる〉
4回目	園外保育実践の振り返り〈記録の書き方を知る〉	19回目	教育実習報告会〈課題をまとめることができる〉
5回目	発表・振り返り〈子ども達の前で発表することをイメージする〉	20回目	履修カルテの作成〈達成したこと、今後の課題を見出す〉
6回目	保育実習準備〈保育実習のねらいを理解する/必要書類を作成する〉	21回目	子どもイベント準備①〈実習計画を検討し、準備することができる〉
7回目	保育実習準備〈実習日誌の書き方を実践をする〉	22回目	子どもイベント準備②〈実習計画を検討し、準備することができる〉
8回目	保育実習準備〈実習日誌の書き方を実践をする〉	23回目	子どもイベント準備③〈実習計画を検討し、準備することができる〉
9回目	実習生としての心構え〈実習生としての自覚を持ち、目標を持って実習に臨む〉	24回目	子どもイベント準備④〈実習計画を検討し、準備することができる〉
10回目	実践計画・製作〈用途、意図を知ることができる〉	25回目	子どもイベント準備⑤〈実習計画を検討し、準備することができる〉
11回目	実践計画・製作〈計画の立案・実践〉	26回目	子どもイベント参加〈保育実践として実習を行う〉
12回目	保育実習振り返り・反省〈実習を振り返り、気づきを得ることができる〉	27回目	子どもイベント振り返り・まとめ〈課題をまとめることができる〉
13回目	保育実習報告会〈実習を振り返り、気づきを得ることができる〉	28回目	進級・卒業展への参加〈次年度の卒業制作のイメージを持つ〉
14回目	次年度実習園調査〈地域の保育園・幼稚園を調べる・概要を知る〉	29回目	次年度実習計画
15回目	環境整備〈子どもの発達に合わせた環境考えて作ることを実践する〉	30回目	年間のまとめと振り返り〈1年間の授業・実習を振り返り、来年度に活かすことができる〉
準備学習 時間外学習	子どもの発達段階・心理的特徴をとらえられるように専門分野の授業の復習をしておくこと。 文献や保育雑誌等で、子どもの発達に合わせた遊びやおもちゃについて調べておくこと。 就職を見据えて地域の園や施設について調べたり、進んでボランティア実習に参加するなどをしていくことが将来役立ちます。		
評価方法	1. 出席（50％） 2. 取組み（50％）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生へのメッセージ	子どもたちと実際にふれあえる機会を活かし、入念な準備のもと安全に、楽しみながら保育実践をしましょう。 実習生としての心構えは日頃からの行いからはぐくまれていきます。実習では学生気分ではなく、一人の保育者として現場に入ることを念頭におきながら事前準備をしっかりと行い、その都度反省・改善をすること。一緒に働きたいと思ってもらえる保育者を目指しましょう。		
【使用教科書・教材・参考書】 必要に応じて資料を配布する。			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	実習プレ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	森田千智
学科	こども保育科	授業	講義または	総時間	60	開講区分	通年
コース	昼間Ⅰ部	形態	演習	(単位)	4	曜日・時限	前期・木曜2限／後期・水曜2限
【授業の学習内容】 保育は「記録」と「計画」により充実したものとなります。教育・保育実習等では記録である「日誌」や計画である「指導案」を書くことで実習がより実り多きものとなります。この授業では、日誌や指導案の書き方について習得します。手順や留意点を学んだ後、各自で指導案を作成し、それに基づいて実際に模擬保育を行います。模擬保育は保育者役と子ども役に分かれて行い、実践力を身に付けます。また、模擬保育後に行う振り返りにより各自の課題を明確にし、さらなる学びへと繋がります。実務者経験：小学校教諭、公立幼稚園講師を経て、大学にて約17年間、保育者・小学校教員養成課程の指導に携わっている。							
【到達目標】 実習日誌の書き方や指導案作成についての基礎的な力を身に付けると共に、模擬保育を通して保育の実践力を身に付けることを目標とします。 〈具体的な目標〉 目標①実習日誌の書き方を習得する。 目標②指導案を作成することができる。 目標③模擬保育により実践力を身に付ける。							

授業計画・内容			
1回目	授業の目的と内容について/保育所・幼稚園の一年・一日	16回目	(目標②) 指導案を作成する(わらべうたあそびを取り入れた保育)
2回目	(目標①) 日誌の書き方について	17回目	(目標②) 指導案を作成する(新聞紙を使った遊びを取り入れた保育)
3回目	(目標②) 指導案の書き方について	18回目	(目標②) 指導案を作成する(発達を考えた保育)
4回目	(目標②) 指導案を作成する(4歳児 造形あそび)	19回目	(目標③) 作成した指導案に基づいて模擬保育を行う(準備物や教材について)
5回目	(目標②) 指導案を作成する(4歳児 造形あそび)	20回目	(目標③) 作成した指導案に基づいて模擬保育を行う(導入と主活動の繋がりについて)
6回目	(目標③) 作成した指導案に基づいて模擬保育を行う(準備について)	21回目	(目標③) 作成した指導案に基づいて模擬保育を行う(子どもの発達を考えた主活動の内容について)
7回目	(目標③) 作成した指導案に基づいて模擬保育を行う(導入の目的について)	22回目	(目標③) 作成した指導案に基づいて模擬保育を行う(ねらいを意識した保育者の援助・留意点について)
8回目	(目標③) 作成した指導案に基づいて模擬保育を行う(主活動の流れについて)	23回目	(目標③) 作成した指導案に基づいて模擬保育を行う(全体の振り返り)
9回目	(目標③) 作成した指導案に基づいて模擬保育を行う(まとめ方について)	24回目	(目標②) 指導案を作成する(各自で設定)
10回目	(目標③) 作成した指導案に基づいて模擬保育を行う(保育者の援助・留意点について)	25回目	(目標②) 指導案を作成する(各自で設定)
11回目	(目標③) 作成した指導案に基づいて模擬保育を行う(全体の振り返り)	26回目	(目標③) 作成した指導案に基づいて模擬保育を行う(子どもの興味・関心と保育について)
12回目	(目標②) 指導案を作成する(つなぎ保育)	27回目	(目標③) 作成した指導案に基づいて模擬保育を行う(ねらいと主活動の内容について)
13回目	(目標②) 指導案を作成する(つなぎ保育)	28回目	(目標③) 作成した指導案に基づいて模擬保育を行う(ねらいに即した保育者の声掛けについて)
14回目	(目標③) 作成した指導案に基づいて模擬保育を行う(活動と活動をつなぐ工夫について)	29回目	(目標③) 作成した指導案に基づいて模擬保育を行う(次への活動を意識したまとめについて)
15回目	(目標③) 作成した指導案に基づいて模擬保育を行う(教材の準備について)	30回目	(目標③) 作成した指導案に基づいて模擬保育を行う(全体の振り返り)
準備学習時間 外学習	(目標①) 実習までに内容をよく復習する。 (目標②) 課題に基づいて各々のやりたい保育内容のアイデアを探す。 (目標③) 各々が発表する日までに指導案に基づいて準備を行う。		
評価方法	●提出物(指導案等) 50% ●授業内発表(模擬保育) 50%	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ	まずは実習等実践の場で授業の成果を活かすことができるように準備していきましょう。そして最終的には信頼される保育者になれるよう、知識・技術そして人間性を一緒に磨いていきましょう。授業への積極的な参加と授業以外(普段の生活)でも子どもの興味・関心を探求する姿勢を期待します。		
【使用教科書・教材・参考書】保育所保育指針、幼稚園教育要領。その他については随時プリントを配布する。			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	キャンプ実習 (Camp Training)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	奥村 健介
学科	こども保育科	授業	講義また	総時間	30	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部	形態	は演習	(単位)	1	曜日・時限	木曜3限
【授業の学習内容】 キャンプインストラクター取得には、実技と理論を兼ね合わせなくてはならない。また、キャンプについて自ら体験し、楽しみ、楽しさ・面白さ・不思議・魅力などで体感したことを自分が関わる人たちへ伝えていくことが役割となる。そのため授業内容は、体験する部分も含め、人前で話すことができるように発表形式で行い自分の言葉でキャンプについての内容を熟知し話すことができるようになりし、更に実技では、自分の得意項目を知り、教えることができるようになる。							
※実務者経験：２００７年特定非営利活動法人日本冒険教育協会を設立後、毎年約１０００人ほどの子どもたちと日帰り・宿泊などのキャンプを行う。また小学校とタイアップし、約５０校の園児・小・中学生の自然教室のカウンセラーを行う。また、平日は、幼稚園・保育園などの園児に対し体操のお兄さんとして奮闘している。							
【到達目標】 <目標> ●キャンプインストラクターの資格の獲得 ●野外スキルを身につける <効果> ●コミュニケーション能力に重点を置き、人との関わり方や接し方を体験型学習として行い、人間に対する考え方や不思議を学ぶ。 ●幼児・障がい児などのキャンプの実例をもとに事業展開を行い、学生にイメージしやすい環境を整える。 ＝ 子どもに対しての理解が深まる							
授業計画・内容							
1回目	ねらい：自分を知り、相手を理解することで更に関係を深める・ルールの明確化						
2回目	ねらい：ゲームの特性を知る → ゲームの方法を学ぶ						
3回目	ねらい：「キャンプ」とはそもそも何なのかを理解し、キャンプに対しての興味を深める						
4回目	ねらい：キャンプに関係する道具を実際使ってみる。 → テント設営が１人でできるようになる						
5回目	ねらい：様々な対象の考え方を理解し、その年代が何を求めているかを理解する → 相手のことを考える						
6回目	ねらい：ロープワークを通して、様々な結び方と遊び方を覚え、実戦で活用できるようになる						
7回目	ねらい：指導者とは？ → リーダーシップとは、フォロワーシップとは、メンバーシップとは何か？を学ぶ						
8回目	ねらい：ロープクラフト、ミサンガやドリームキャッチャー・携帯ストラップの作り方をマスターする						
9回目	ねらい：危険とは何かを理解し、それに対する危険因子・対象法などを学ぶ						
10回目	ねらい：身近な自然にある草旬物の調査 → 食べられる・遊び方・効能など理解する						
11回目	ねらい：考えるゲームや・課題解決ゲーム等体験し、人間関係をさらに理解する						
12回目	ねらい：敗えて少し危険なことに挑戦し、チャレンジ精神を養う *内容の変更有						
13回目	ねらい：天気用の仕組みや観天望気・台風の仕組みや化学などを理解する						
14回目	ねらい：キャンプの企画方法をマスターする						
15回目	ねらい：インストラクターに向けての試験対策を行う						
準備学習 時間外学習	授業で行ったことを毎回各自復習し、小テストにのぞむ また、キャンプ指導者入門を毎回授業前に読んでおくことが理解しやすい						
評価方法	1. 定期試験 (%) 2. 小テスト (%) 3. レポート (%) 4. 課題成果 (%) 5. 実地試験 (%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	●小テスト：30点 ●実地試験：50点 ●出欠席：20点				
受講生への メッセージ	キャンプにおける必要性や考え方を学ぶため一見マンアックに感じるかと思いますが、「保育園」や「幼稚園」の園児にそのまま活用できるような内容もたくさん取り入れて授業を行います。是非、何か興味を持ったものを膨らめて自分のものにして、皆さんの今後に活かしてみてください。						
【使用教科書・教材・参考書】 キャンプ指導者テキスト *実技で使用する物は授業内で次回に必要な内容を伝えます。							

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	幼児体育指導 (Infant Physical Education)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	日本幼少年体育協会
学科	こども保育科	授業 形態	講義 または演習	総時間	15	開講区分	集中
コース	昼間Ⅰ部			(単位)	1	曜日・時間	
【授業の学習内容】 幅広いスキルが求められている幼児体育の現場で、自信をもって適切な指導ができる人材育成を目指す。幼児体育に関する基本知識やお手本として相応しい運動指導法について、「発育発達」「幼児体育論」といった理論に関する知識と、「マット運動」「跳び箱」「なわとび」「体操」「ゲーム遊び」などの実技について習得する。							
【到達目標】 子どもに対して、体育や運動あそびを「たのしく」「わかりやすく」「安全に」指導できる「幼児体育指導者」のスキルを身に付け、幼児体育指導者検定合格を目指す。 幼児体育指導者の資格は学科試験・実技試験に合格することで取得可能。全国の幼稚園・保育園・スポーツ施設等で活躍できる。							

授業計画・内容			
1回目	オリエンテーション		
2回目	理論講座（心理、発育発達）		
3回目	理論講座（スポーツ指導論）		
4回目	実技講座（ゲームあそび、リズム体操）		
5回目	実技講座（マット、跳び箱、体操）		
6回目	学科試験		
7回目	実技講習（縄跳び）		
8回目	実技試験		
9回目	合格発表・補講		
10回目	追試験		
準備学習 時間外学習	準備物：筆記用具、インシューズ、運動着、縄跳び、ノート 注意 ①ジャージ、Tシャツ、ポロシャツ等を用意してください。 ②ジーパン、チノパン、Yシャツ等、普段着受講は不可、無論スカートも不可です。 ③クロックス、スリッパ、裸足、靴下での受講・受験はできません。 実技に関しては自主練習をし、試験に挑むこと。補助の試験では、受験者同士で「補助者役」と「子ども役」を行う。		
評価方法	1. 出席率20% 2. 試験80%	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ	学科講習、実技講習を全て受講しないと、検定試験を受験できません。遅刻、欠席（1日目または、2日目）、途中退出は認められませんので注意してください。 身体に支障（けが等）がある場合は、技術的に不安がある場合は、あらかじめ検定員に申し出て判断を仰ぐようにしてください。		
【使用教科書・教材・参考書】 「幼児体育指導者検定 公式テキスト2.3級」一般社団法人 日本幼少年体育協会			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	レクリエーションⅠ	必修選択	必修	年次	2	担当教員	林 栄五郎
学科	こども保育科	授業形態	講義・演習・実技	総時間	60	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部			(単位)	4	曜日・時限	火曜・3, 4限
【授業の学習内容】							
授業内容： レクリエーションを単に楽しい遊びにとらえるだけでなく、創造的な生き方そのものであるととらえ、体験を通してレクリエーションを学んでいく。そのためには、一方的に教えるのではなく、アクティブラーニングを念頭において、問いかけに対してグループで話し合ったり、創作したりすることをとおして、考える力、工夫する力、創り出す力、発表する力を養う。そのためには、受け身になることなく、自ら進んで発言したり、チャレンジしていく。							
実務者経験：名古屋医健スポーツ専門・学校レクリエーション(2018前後期/2021後期～2024前後期)							
【到達目標】							
子どもにとってのレクリエーション活用の意義を理解し、状況に合わせてレクリエーションを活用ができるようになる。							
1 レクリエーションの意義やその根底にある教育学、社会心理学的理論を習得できる。							
2 楽しさを体験することにより、自分から進んで行動できる。							
3 状況に合わせてレクリエーションゲームなどをアレンジして提供できる。							
4 レクエーション活動をする対象者がどのような気持ちになったりグループがどのような状況になったりしていくかを観察する力を養う。							
5 レクリエーションプログラムを作成し、振り返る力を身につける。							
6 対象者が創造的にレクリエーション活動をするようになる声かけができるようになる。							
授業計画・内容							
1回目	オリエンテーション			16回目	グループワークトレーニング3		
2回目	アイスブレイキングゲーム			17回目	信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ 2		
3回目	レクリエーション支援とは/レクリエーションインストラクターの2つの役割			18回目	グループワークトレーニング4		
4回目	じゃんけんゲーム			19回目	良好な集団づくりの方法・アイスブレイキング1		
5回目	楽しさをとおした元気づくりと対象者の心の元気			20回目	風づくり		
6回目	コミュニケーションゲーム1			21回目	良好な集団づくりの方法・アイスブレイキング2		
7回目	心の元気と地域のきずな			22回目	こま作り		
8回目	コミュニケーションゲーム2			23回目	レクリエーション事業の企画		
9回目	コミュニケーションと信頼関係づくりの理論			24回目	リスクマネジメントの方法		
10回目	コミュニケーションゲーム3			25回目	レクリエーション支援の実施1-1		
11回目	良好な集団づくりの理論			26回目	レクリエーション支援の実施1-2		
12回目	グループワークトレーニング1			27回目	レクリエーション支援の実施2-1		
13回目	自主的、主体的に楽しむ力を育む理論			28回目	レクリエーション支援の実施2-2		
14回目	グループワークトレーニング2			29回目	レクリエーション活動の振り返り		
15回目	信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ1			30回目	評価テスト		
準備学習 時間外学習	あらかじめどのようなことを学ぶかを見通して、授業の準備をする。授業で学んだ各種レクリエーションは、繰り返し練習することで、提供の仕方の感覚も身についてくるので、時間外でも練習をする。						
評価方法	授業態度(10%) レポート(15%) 実技演習(15%) 製作作品(10%) 筆記試験(50%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格					
受講生への メッセージ	実技ではコミュニケーションゲーム、グループワークなど、楽しい活動ばかりです。まずは、自らがレクリエーションの楽しさをしっかり体験して、心の元気づくりに励んでほしいと思います。自分が元気であることが、子どもたちを元気づけることができるのです。						
【使用教科書・教材・参考書】							
『楽しさをとおした心の元気づくり』レクリエーション支援の理論と方法				日本レクリエーション協会発行			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	就職対策講座Ⅰ Employment Measures CourseⅠ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	榊原 溥
学科	こども保育科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	水曜 1限
【授業の学習内容】 1968年4月～2006年3月まで義務教育の教師として従事、2007年4月～2015年3月まで金城学院大学人間子ども学科教授として在籍した。いずれも子どもの成長とその環境の在り方について、多様な視点での問題解決に当たってきた。子どもは豊かに伸びていく可能性を一人ひとりが内に秘めているという知見を視覚・聴覚・言語情報から修得する。そして、その子ども一人ひとりが楽しく、よく生きられるように「生きる力」を身に付ける使命を担う教師の自覚を確立する。また、多様な教育課題に実行可能な具体的な対応策・解決策を探り、その方策を他人に説明できるようにする。							
【到達目標】 子どもの成長に関わる職に就くという目標実現に向け、基本的な試験対策を知る。その子どもが、今をよく生き、望ましい未来を具体的な問題について自分を高める努力ができる。また、「専門性+A」という専門的な力量と現場で必要とされる「子ども一人ひとりを大切にする視点と取り組み」を講義・面談・討論を通して研鑽し、「主体的・対話的で深い学びの活動実現」を目指すようになる。即ち、自分の言葉で実現や解決の手だてが相手に説明でき、理解されるようにする。							

授業計画・内容			
1回目	教育制度の法的な根拠。教育基本法・学校教育法・学校教育法施行規則・教育要領・保育指針等の概要を知り、幼児教育と関 わりの深い条文を関連付けて説明できる。		
2回目	教育制度の法的な根拠と目的・目標。 幼児教育が目指す目的・目標を自分の言葉で、根拠を添えて、相手に明確に伝えることができる。		
3回目	国立教育政策研究所著作「幼児期から児童期への教育」抜粋から、教育の在り方を修得。 「子どもの心に寄り添うことの大切さ」を知り、オンリーワンの視点で保育する大切さを自分のものとする。		
4回目	東海ラジオ「子どもとのいい関係Ⅰ」を聴取。 「大変なことは大切。大切だから大変」という視点で環境・様子について考え、教育での必要性が語れる。		
5回目	東海ラジオ「子どもとのいい関係Ⅱ」を聴取。 幼・小・中・高一貫した理念である「生きる力」を考え、幼児教育に携わる者の使命や役割が自分の想いで語れる。		
6回目	各自治体の試験内容を知り、各自の対応策の検討。 共通課題である「志望動機」について、明確に志望と動機を意識して一分間以内で述べられる。		
7回目	個人面接での評価と質問内容への対応策と練習。 笑顔(視覚情報)・音声(聴覚情報)・論述内容(言語情報)で人物評価されるという視点から、常に対話時に心掛ける自分を構築		
8回目	集団面接での評価と質問内容への対応策と練習。 多くの正解のない質問では、相手の目を見て「ニコリと明確に話す」を心掛け、回答できる自分を構築する。		
9回目	集団討論での評価と質問内容への対応策と練習。 自己紹介文をフォーマットに従って書き、推敲して、自分の言葉で簡潔に話すことができる。		
10回目	実技試験での評価と実技内容への対応策と練習。 童話や昔話の持つ魅力を子どもに伝えるために、「泣いた赤鬼」の朗読と曲付けに挑戦できる。		
11回目	童話や昔話の持つ魅力を子どもに伝えるための「泣いた赤鬼」の上演練習。 子どもの目の高さを意識して、意欲的に参加する姿勢が各自に芽生える。		
12回目	童話・昔話の持つ魅力と説得力の素晴らしさを知るため、創作話「泣いた赤鬼」上演に挑戦してみる。 意欲的・協働的な姿勢で子どもの笑顔を目指し、取り組める。		
13回目	自分はいかなる人間か。 何故子どもに関わる仕事を熱望するのかを問い直し、自己を見つめる。500字にまとめ、自己評価できる。		
14回目	論述するという意図・表記・内容を確認し、課題について論述。序論・本論・結論の内容のまとまりを自己評価し、推敲できる。		
15回目	テストと授業総括。 本授業の総括時に、相互評価という対話的な過程を通して、自己の修得内容の一層の定着を高め・深める学びができる。		
準備学習 時間外学習	自分の教育姿勢を確立する前提条件は、「あいさつ」・「返事」・「履物そろえ」と心得え、日々の生活での実践をする。		
評価方法	1. 定期試験(60%) 2. 小テスト(20%) 3. レポート(10%) 4. 課題成果(10%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	
受講生への メッセージ	皆さんの目標実現に向けての日々の挑戦場面、それが授業です。少人数での授業となります。ですから、主体的な 話し合い、対話的な意見交換が可能となります。一人ひとりが自ら「自分を高め、より質の高い意見を持つ」という意 識を心掛け、授業に臨みたいものです。私は、「強く 優しく 美しく」という言葉が好きです。授業に参加する皆さんも この言葉の意図・想い・願いを共有して下さい。		
【使用教科書・教材・参考書】 毎回資料を配布			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	幼児安全法 (Infant Safety Act)	必修選択	必修	年次	2,3	担当教員	奥村 健介
学科	こども保育科	授業形態	講義	総時間	30	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部		または 演習	(単位)	1	曜日・時限	木曜日2限

【授業の学習内容】 幼児安全法について学び、教本の全内容の確認、指導実習（学科・実技）などを行う。							
【到達目標】 ・子どもに起こりやすい事故の予防と手当および子どもの病気への対応を習得 ・小児、乳児の心肺蘇生とAEDの使い方を習得							

授業計画・内容			
1回目	幼児安全法の目的を理解する。		
2回目	子どもに起こりやすい事故①（転落・転倒による頭部などのけが、溺水など）を理解する。		
3回目	子どもに起こりやすい事故②（熱傷・感電、きずなど）を理解する。		
4回目	子どもに起こりやすい事故③（不審者対応）を理解する。		
5回目	子どもに起こりやすい事故④		
6回目	年齢別にみた子どもの事故についてまとめる。		
7回目	子どもの事故防止①（環境整備）を理解する。		
8回目	子どもの事故防止②（安全教育）を理解する。		
9回目	子どもの事故防止③（子どもの運動機能を高める遊び）を理解する。		
10回目	遊びと危険①		
11回目	遊びと危険②		
12回目	幼稚園の遠足実施予定		
13回目	幼稚園の遠足実施予定		
14回目	幼稚園の遠足実施予定		
15回目	幼稚園の遠足実施予定		
準備学習 時間外学習	ニュースや新聞で子どもの事故に関する情報に着目する。 学外実習で子どもの安全対策の取り組みに関心を持つ。		
評価方法	1.レポート提出 (50%) 2.積極的授業態度 (50%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生へのメッセージ	子どもの実体を感じ取り、子どもと関わる仕事の中で最低限の安全管理を学び活かしていく。		

【使用教科書・教材・参考書】			
-----------------------	--	--	--

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	子ども福祉学 (Children's Welfare)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	戸高 勉
学科	こども保育科	授業	講義	総時間	30	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部	形態	または演習	(単位)	2	曜日・時限	火曜 ・ 2限

【授業の学習内容】

平成28年の児童福祉法改正により社会的養護は大きな変化を求められている。しかし、いまだにその実態は一般的に知られておらず偏見も多い。講義の中では社会的養護に関する法律やデータを具体的な事例に照らし合わせて説明していく。これによりどの機関に所属しても、社会的養護に関する知識だけでなく現状を理解したうえで要保護児童（社会的養護を必要とする児童）の支援に参加できるようになる。

※実務経験：2001年4月から現在まで社会福祉法人照光会の児童養護施設で勤務している。2008年～2020年まで家庭支援専門相談員として保護者対応、児童相談所、学校等の他機関との連絡調整を主な業務としていた。2021年からは副施設長として施設全体のマネジメントを業務としている。☑

【到達目標】

保育士として要保護児童の支援に関わる際に必要な知識、技術を習得する。

<具体的な目標>

- ①社会的養護と要保護児童を取り巻く環境（法律、社会資源等）について説明できる。
- ②要保護児童（特に課題の多い児童）の特徴を理解し、支援計画を策定し実践できる技術を身に付ける。
- ③他職種間の連携の意義と方法を習得する。

授業計画・内容

1回目	社会的養護とは ～基本的な考え方について説明できるようになる～
2回目	児童虐待の実態 ～虐待防止法や具体的な事例を説明できるようになる～
3回目	社会的養護が必要とされる背景 ～具体的な入所理由をもとに説明できるようになる～
4回目	社会的養護の実際① ～施設養護の実際を説明できるようになる～
5回目	社会的養護の実際② ～課題の多い子ども達の特徴を説明できるようになる～
6回目	社会的養護の実際③ ～施設養護の課題、社会的養育ビジョンについて説明できるようになる～
7回目	社会的養護の実際④ ～施設養護での取り組みについて説明できるようになる～
8回目	社会的養護の実際⑤ ～家庭養護についてを説明できるようになる～
9回目	社会的養護の養育法① ～コンセンサスペアレンティングを使えるようになる ステップ1～
10回目	社会的養護の養育法② ～コンセンサスペアレンティングを使えるようになる ステップ2～
11回目	社会的養護の養育法③ ～コンセンサスペアレンティングを使えるようになる ステップ3～
12回目	自立支援計画の策定① ～援助計画を立てられるようになる～
13回目	自立支援計画の策定② ～アセスメントからプランニングまでができるようになる～
14回目	専門職間の連携について ～様々な連携について、ポイントを理解して実践できるようになる～
15回目	講義のまとめ 試験

準備学習
時間外学習

社会的養護に関する法制度や施設等については、講義前に確認しておいた方が、講義の内容が理解しやすいと思います。

評価方法

1. 出席 (30%)
2. 授業への参加度 (30%)
3. 試験 (40%)

評価方法はGPA制度となります
100～90点 S
89～80点 A
79～70点 B
69～60点 C
59点以下 F 不合格

受講生への
メッセージ

皆さんが社会的養護について正しく理解して社会に発信できるように、なるべくわかりやすく現状を伝えていきたいと思っています。また、皆さんと一緒に考える機会にもしたいと思います。

【使用教科書・教材・参考書】

テキストは指定しない。授業内に適宜プリントを配布する。

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	音楽表現技術 (Music expression technology	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	小野 隆司
学科	こども保育科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	15 1	開講区分	集中
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	
【授業の学習内容】 様々な子どものうたを実際に歌うことにより、現場での音楽活動に必要なレパートリーを増やし、より効果的な歌唱表現を目指す。読譜に必要な基礎的な楽典の知識を理解し、ピアノ演奏技術のさらなる向上を目指す。 実務者経験：声楽・歌曲伴奏・合唱を中心に演奏活動や指導を続ける。保育系養成校においては、幼児曲の弾き歌い、ピアノ奏法などの指導を行っている。							
【到達目標】 ・子どものうたの歌唱等の活動を通して、「うたうこと」へのより良い理解を深める。 ・弾き歌い、楽器演奏に必要な楽典の知識を習得し、実際の演奏に生かせるようにする。 ・ピアノ演奏を主に、器楽演奏技術の向上を目指す。							

授業計画・内容			
1回目	ガイダンス		
2回目	レッスン 声楽：記録表② ピアノ：記録表②		
3回目	レッスン 声楽：記録表② ピアノ：記録表②		
4回目	レッスン 声楽：記録表② ピアノ：記録表②		
5回目	レッスン 声楽：記録表② ピアノ：記録表②		
6回目	レッスン 声楽：記録表③ ピアノ：記録表③		
7回目	レッスン 声楽：記録表③ ピアノ：記録表③		
8回目	レッスン 声楽：記録表③ ピアノ：記録表③		
9回目	レッスン 声楽：記録表③ ピアノ：記録表③		
10回目	まとめ		
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
準備学習 時間外学習	歌唱、ピアノともに練習あるのみです。課題への取り組み、授業後の復習は最低でも60分は楽譜を見て毎日練習を続けていくことが望ましい。		
評価方法	授業への積極的参加 (50%) 発表、提出物等(50%)	評価方法はG P A制度となります 1 0 0～9 0 点 S 8 9～8 0 点 A 7 9～7 0 点 B 6 9～6 0 点 C 5 9 点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ	音楽活動は保育士や幼稚園教諭にとって欠かせないスキルの一つです。この講義を通して、皆さんのスキル向上に役立つよう頑張りたいと思います。皆さんの積極的な参加を期待します。		
【使用教科書・教材・参考書】			
「音楽(声楽教本)」 「音楽(ピアノ教本)」 近畿大学九州短期大学通信教育部			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	幼児と造形表現 (Infant and Formative Expression)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	鈴木 葵
学科	こども保育科	授業	講義ま	総時間	15	開講区分	集中
コース	昼間Ⅰ部	形態	たは演	(単位)	1	曜日・時限	

【授業の学習内容】

幼児にとっての造形活動体験は心身の成長発達において欠くことのできない重要な体験である。また保育者の造形表現における発見や感動といった体験も、造形表現の援助者として大切な体験である。本講では実際に素材や技法に触れながら、基礎的な表現方法を理解するとともに、作品制作における発見、感動といった事柄にも重点を置く。作品制作を通し、幼児の発達の段階に応じた造形活動における素材や表現技法、支援方法を学ぶ。

【到達目標】

実技課題を通じて造形表現における基礎的な技法を習得すると共に、より応用的な表現に目を向け、幼児期の発達の段階に応じた造形表現、支援方法を考察することができるようになる。

授業計画・内容

1回目	「からくりカード」 （日本古来のからくり技法の初歩的な仕組みを理解し、造形表現として扱うことができるようになる。）
2回目	「ポップアップカード① ポップアップの仕組みについて」 （ペーパークラフトにおける平面と立体の関係に着目し、ポップアップの仕組みを理解することができるようになる。）
3回目	「ポップアップカード② アイデアスケッチ」 （ペーパークラフトにおける平面と立体の関係に着目し、ポップアップの仕組みを理解することができるようになる。）
4回目	「ポップアップカード③ パーツ制作」 （ペーパークラフトにおける平面と立体の関係に着目し、ポップアップの仕組みを理解することができるようになる。）
5回目	「ポップアップカード④ 組み立て～完成」 （ペーパークラフトにおける平面と立体の関係に着目し、ポップアップの仕組みを理解することができるようになる。）
6回目	「紙テープの稜線接着①」 （平面と立体の中間に位置するレリーフ表現を考察し、造形表現として扱うことができるようになる。）
7回目	「紙テープの稜線接着②」 （平面と立体の中間に位置するレリーフ表現を考察し、造形表現として扱うことができるようになる。）
8回目	「紙コップ人形①」 （紙コップを使った単純な仕掛けを使い、よりオリジナルな造形表現へと生かすことができるようになる。）
9回目	「紙コップ人形②」 （紙コップを使った単純な仕掛けを使い、よりオリジナルな造形表現へと生かすことができるようになる。）
10回目	「まとめのプリント」 （授業内で制作した作品について振り返り、文章としてまとめることで造形表現への理解を深めることができるようになる。）
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	

準備学習
時間外学習

授業で扱う道具、材料の使用方法、特徴について事前に調べておくこと。

評価方法

課題成果70%
授業内小レポート30%

評価方法はG P A 制度となります
1 0 0 ～ 9 0 点 S
8 9 ～ 8 0 点 A
7 9 ～ 7 0 点 B
6 9 ～ 6 0 点 C
5 9 点以下 F 不合格

受講生への
メッセージ

作品制作を体験することにより、新しい制作アイデアや指導方法を獲得することが目的です。自分の体験をこども達の目線に置き換えて制作を実践することを心がけて参加してください。

【使用教科書・教材・参考書】

適宜指示する。

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	幼児と健康 (Infant and Health)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	立松 由資
学科	こども保育科	授業 形態	講義また は演習	総時間 (単位)	15 1	開講区分	集中
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	
【授業の学習内容】 領域「健康」のねらいと内容、また養護に関わるねらいと内容について確認し、乳幼児における健康の重要性や意義、発育・発達について理解を深める。 また、保育において生命と健康を保障するための指導・援助の方法や、保育の内容、身体活動をともなう遊びについて実践やディスカッションをとおして理解を深める。 実務経験:保育・教育現場において乳幼児の保育に従事している。							
【到達目標】 ・領域「健康」の指導に関する、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項についての知識を身につける。 ・乳幼児期の「健康」に関わる指導や援助について理解し、教材研究や指導計画の立案ができるようになる。							

授業計画・内容			
1回目	乳幼児期の健康課題(身体的・精神的・社会的健康課題)		
2回目	健康の定義と乳幼児期の健康の意義		
3回目	領域「健康」と保育所保育指針における「養護」のねらいと内容の理解		
4回目	乳幼児期の身体の発育・発達		
5回目	基本的生活習慣の形成(排泄・睡眠・休息・食事・清潔、着脱衣)		
6回目	乳幼児期の安全教育と安全管理		
7回目	乳幼児期の運動発達の特徴		
8回目	幼児期における多様な動きの獲得とその意義		
9回目	遊びとしての運動とその援助		
10回目	振り返りとまとめ		
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
準備学習 時間外学習	・子どもの健康に関する記事や情報を新聞やインターネットであらかじめ読み、日常的に興味・関心を持つようにすること。 ・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」を読んでおくこと。		
評価方法	受講姿勢と提出物によって総合的に判断する。	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	
受講生への メッセージ	領域「健康」について専門的事項を身につけていく中で、乳幼児期の健康課題について皆で一緒に考え、対話を通して理解を深めていきましょう。		
【使用教科書・教材・参考書】 必要に応じて資料を配布する。			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	社会的養護Ⅱ (Social CareⅡ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	戸高 勉
学科	こども保育科	授業 形態	講義	総時間	15	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部			(単位)	1	曜日・時限	火曜 ・ 2限

【授業の学習内容】

本科目は、1年次に既習の「社会的養護Ⅰ」の基本的な知識・理論を土台として、施設養護および家庭養護を含む社会的養護に関するより実践的な内容について学ぶものである。社会的養護の実際を知り、社会福祉の専門職である保育士の視点から事例検討を行うなかで、子どもおよびその家庭に対する支援・援助に必要な技術・方法を身につけることを目的として講義を進める。

※実務経験：2001年4月から現在まで社会福祉法人照光会の児童養護施設で勤務している。2008年～2020年まで家庭支援専門相談員として保護者対応、児童相談所、学校等の他機関との連絡調整を主な業務としていた。2021年からは副施設長として施設全体のマネジメントを業務としている。

【到達目標】

- ・社会的養護における子どもの権利擁護のあり方について理解を深める。
- ・社会的養護に必要な支援・援助方法について具体的に学ぶ。
- ・児童福祉施設の運営管理について学ぶ。
- ・児童福祉施設における保育士の資質と倫理について理解を深める。

授業計画・内容			
1回目	社会的養護における子どもの権利擁護のあり方について学ぶ。		
2回目	社会的養護の専門職の倫理と責務について考える。		
3回目	乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設における施設養護について理解する。		
4回目	児童心理治療施設・児童自立支援施設における施設養護について理解する。		
5回目	家庭養護の現状について理解し、今後の課題について考える。		
6回目	さまざまな家族の形について理解し、今後の課題について考える。		
7回目	被措置児童等虐待の防止のあり方について事例検討を通して学ぶ。		
8回目	日常生活における支援のあり方について事例検討を通して学ぶ。		
9回目	子どもの自立に向けた支援のあり方について事例検討を通して学ぶ。		
10回目	社会的養護に求められる保育士の専門性について理解する。		
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
準備学習 時間外学習	配布資料、授業内で提示した文献を参考に学習を深める。 新聞やテレビ、ネットなどを観て、社会で起こっていることを情報収集する。		
評価方法	1. 出席 (20%) 2. 授業への参加度 (40%) 3. レポート (40%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ	皆さんが社会的養護について正しく理解して社会に発信できるように、なるべくわかりやすく現状を伝えていきたいと思います。また、皆さんと一緒に考える機会にもしたいと思います。		
【使用教科書・教材・参考書】			
相澤仁、村井美紀、大竹智『社会的養護Ⅱ 新・基本保育シリーズ⑱』中央法規			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	障害児保育 (Disabled Children Childcare)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	兒玉和志
学科	こども保育科	授業	講義	総時間	15	開講区分	集中講義
コース	昼間Ⅰ部	形態	または演習	(単位)	1	曜日・時限	
【授業の学習内容】 1. 障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。 2. 様々な障害について理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について学ぶ。 3. 障害のある子どもの保育の計画を作成し、個別支援及び他の子どもとのかかわりのなかで育ち合う保育実践について理解を深める。 4. 障害のある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解する。							
【到達目標】 障害のある子どもへ、発達の視点を生かした保育のあり方について基礎知識を身につける。							

授業計画・内容			
1回目	オリエンテーション　障害とは？		
2回目	発達の理解		
3回目	障害の基礎知識と保育（知的障害、脳性麻痺）		
4回目	障害の基礎知識と保育（LD・ADHD）		
5回目	障害の基礎知識と保育（ASD）		
6回目	障害の基礎知識と保育（虐待と情緒障害、愛着障害）		
7回目	障害の基礎知識と保育（視覚障害・聴覚障害）		
8回目	障害の基礎知識と保育（運動障害）		
9回目	障害の基礎知識と保育（医療との連携が必要な子どもたち）		
10回目	親支援		
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
準備学習 時間外学習	授業では資料を中心に対話式で進める。まずは知識をもつため、資料や本の熟読を求める（2時間）。授業後は学んだ単元について復習を行うために授業内での講師の説明した事をふりかえること（2時間）。新聞等から社会の事象に関心を持つことや、児童家庭福祉に関連する施設でのボランティアを積極的に行うことも良い。		
評価方法	定期試験/授業態度 各50%	評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　　A 79～70点　　B 69～60点　　C 59点以下　　F 不合格	
受講生への メッセージ	基本的な知識を得ながら、どのようにすれば子どもたちがすごしやすく学びやすい環境を作れるのか考えながら受講してください。		
【使用教科書・教材・参考書】			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	こどもの食と栄養 (Food and nutrition of children)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	武田 康代
学科	こども保育科	授業形態	講義または演習	総時間	15	開講区分	集中
コース	昼間Ⅰ部			(単位)	1	曜日・時間限	
【授業の学習内容】							
【授業の学習内容】 保育者を目指す上で、押さえておくべき基本的知識（栄養・栄養素バランス）を修得する。また、乳児期、幼児期の食生活、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解を深める。食の支援ができる保育者となるため、栄養の知識の修得、活用により問題解決する力を身につける。近年増加している食物アレルギー児に対して適切な対応ができることを目指す。 *実務者経験：1985年4月～1989年3月まで知的障害者更生施設 管理栄養士。2012年～高齢者ディサービス・多機能型事業所（生活介護・児童発達支援事業）チーフマネージャー。							
【到達目標】							
【到達目標】 健康な食生活の基本として、「子どもの食と栄養」の意義や食育のための環境についてスクーリングを通して実践力を修得する。（1）乳児期の授乳・離乳の必要性およびその進め方について説明することが出来る。（2）幼児期における間食の必要性と与え方について説明することが出来る。（3）食物アレルギー児への適切な対応ができる。（4）食育の基本と内容を理解し、説明することができる。							
授業計画・内容							
1回目	オリエンテーション こどもの健康と食生活の意義について説明できる。						
2回目	栄養に関する基礎知識 （目標）5大栄養素・3色食品群・食事バランスガイド・日本人の食事摂取基準について説明できる。						
3回目	栄養に関する基礎知識（目標）たんぱく質とカルシウムの生体内の役割と多く含む食品を説明できる。						
4回目	食物アレルギー（目標）食物アレルギー児に適切な対応ができる。						
5回目	妊娠期と授乳期の食生活（目標）母体の健康と胎児や乳児の発育に栄養管理を行う必要があることを説明できる。						
6回目	小児期の食生活事故（目標）気道内異物、窒息について対応と対処方法について説明できる。						
7回目	乳児期の授乳（目標） 安全な調乳の手法について説明できる。						
8回目	食育の基本と内容（目標）小児期の食育の必要性について説明できる。						
9回目	食育の基本と内容（目標）幼児期における間食の必要性と与え方について説明することができる。						
10回目	まとめ（目標）小児期の食と栄養が、生涯にわたる健康と生活の基礎となることを説明できる。						
準備学習時間外学習	テキストの各項目の重要箇所についてまとめ、説明できるようにする。授業内容の理解できなかったところや、苦手な内容は積極的に質問すること。授業内容のポイントをおさえ、食育演習ノートに随時書き込み、充実したノートの作成を心掛ける。						
評価方法	1. 定期試験（40％） 2. 小テスト（20％） 3. レポート（20％） 4. 課題成果（20％） 5. 実地試験（％）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格					
受講生へのメッセージ	日々の生活の中で栄養素や食生活に関する情報に目を向け、関心をもってほしい。地元の郷土料理、伝統食材、特産品など食文化への理解を深める。						
【使用教科書・教材・参考書】 『新 保育ライブラリ こどもの食と栄養』（北大路書房） 参考書『子どもの食と栄養』（羊土社）							

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	子育て支援 (Child care support)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	平光久美子
学科	こども保育科	授業形態	講義	総時間	15	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部		または演習	(単位)	1	曜日・時間限	6月7日・14日
【授業の学習内容】							
授業内容：保育現場の実例を基に、保護者や子どもたちの現状を知り、具体的な支援の仕方を学ぶ。 グループ討議をする中で、保護者や子どもたちの気持ちを考える視野を広げ、気持ちに寄り添うスキルを学ぶ。 実務者経験：公立保育園 保育士・園長							
【到達目標】							
保護者の子育ての喜び、悩み等を共感的に受けとめ、保育者として子育てを支援するためのスキルを習得する。							

授業計画・内容			
1回目	子どもの変容と人間発達論 人間発達論の社会歴史的変遷		
2回目	変わる家族の形態 家庭教育と子育て支援		
3回目	子どもが生きる世界 子どもを取り巻く今日の社会環境		
4回目	子どもが生きる世界 情報化・消費社会における子どもの育ち		
5回目	子どもの世界と大人の課題 福祉・医療・療育・教育の連携役割分担		
6回目	臨床心理的アプローチ 子ども心のケア		
7回目	保育者的アプローチ 家庭への支援体制		
8回目	保育者的アプローチ 専門機関へのつなぎ方		
9回目	保育者的アプローチ ネグレクト、ナラティブ・アプローチ		
10回目	基礎知識と技術の確認 試験とまとめ		
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
16回目			
準備学習時間外学習			
評価方法	1. 定期試験 2. 授業態度	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生へのメッセージ	保護者の本当の気持ちを知ることはいけません。しかし、傾聴、共感をする中で、少しでも保護者の気持ちを理解し寄り添える子育て支援ができるよう一緒に考えていきましょう。		
【使用教科書・教材・参考書】 講義で指定する			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	教育実習事前事後指導 (Teaching Practice Pre- Post Guidance)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	櫛田 英代
学科	こども保育科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	集中講義
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	

【授業の学習内容】

幼稚園教諭二種免許状取得に向けた教育実習が円滑かつ有意義に行われるよう、以下のような教育実習に関わった基礎的な知識の理解を深めていく。

①幼児期の発達段階 ②幼稚園の機能と役割 ③幼稚園教諭の職務と役割 ④観察記録の作成方法 ⑤指導計画の立案

実務者経験

これまで国内外の保育施設において、乳幼児の保育・教育に携わってきた。また、保育者養成校において学生の教育・実習指導にあたる。

【到達目標】

- ・教育実習に向けた「事前」の心構えや準備に関する基礎的知識を理解する。
- ・観察記録の作成、指導計画の立案の方法を理解する。
- ・「事後」のまとめに関わった考察の視点を理解する。

授業計画・内容			
1回目	教員養成の目標と教育課程、教育実習の意義/幼稚園の機能と役割、法的根拠、幼稚園教育を取り巻く状況		
2回目	幼稚園教員の職務と役割/幼児期の発達課題と生活課題、家庭との連携		
3回目	実習園の情報収集の方法/教育実習の実習記録作成について（実習日誌の書き方）		
4回目	事例検討（3～5歳児）子どもとのかかわりについて		
5回目	教育実習に向けた準備/まとめ課題		
6回目			
7回目			
8回目			
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
準備学習 時間外学習	・子ども子育て支援制度など、幼児教育や子育てに関わった現代的な課題を新聞などの情報によって確認し、把握しておきましょう。 ・実習で使用する手遊び、歌遊び、ゲームなどのレパートリーを増やしておきましょう。 ・子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深めるために、ボランティア活動に積極的に参加しましょう。		
評価方法	1. 授業態度30（％） 2. 課題提出、レポート70（％）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生へのメッセージ	幼稚園と保育所の違いを理解し、実習に向けて準備万端にしておきましょう。		
【使用教科書・教材・参考書】			
適宜、配布します。			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	保育実習事前事後指導Ⅰ (保育所) (Childcare Training Pre- Post GuidanceⅠ (Nursery))	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	櫛田 英代
学科	こども保育科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	集中
コース	昼間Ⅰ部					曜日・時限	
【授業の学習内容】 この科目では、初めに保育実習の意義・目的・内容といった保育実習の全体的な枠組みを概説する。それに続いて、具体的な内容を通して保育所実習についての授業を行う。保育実習所実習前にすべき事柄・指導計画案の作り方・実習記録の作成および実習後にすべき事柄などを中心に具体的な事例に基づきながら行っていく。また、保育所の実習目標、実習課題、実習に向けた学習計画についてレポートをまとめていく。「保育実習Ⅰ」終了後は、実習の反省、次回の実習に向けた課題など実習事後レポートをまとめる。 実務者経験:これまで国内外の保育施設において、乳幼児期の子どもの保育・教育に携わってきた。 また、保育者養成校においては、学生の教育・実習指導にあたる。							
【到達目標】 ・ 保育実習の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを作る。 ・ 指導計画案の作成や実習日誌の書き方などに関わる知識と技術を身につける。 ・ 実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。							

授業計画・内容		
1回目	保育実習の全体の流れと諸注意を習得する。	
2回目	保育所実習の意義・目的・内容について習得する。	
3回目	保育所の1日の流れとデイリープログラムの理解をする。	
4回目	保育所実習の実習記録作成について（実習日誌の書き方）	
5回目	保育所実習の指導案作成について（指導案の書き方）	
6回目		
7回目		
8回目		
9回目		
10回目		
11回目		
12回目		
13回目		
14回目		
15回目		
準備学習 時間外学習	・手遊び、歌遊び、絵本の読み聞かせなどの教材や部分指導など保育実習に向けた準備をしましょう。 ・児童福祉施設の社会的役割、種類、内容などについての事前学習をしておくといでしょう。 ・各自設定した、児童福祉施設における実習目標、課題、学習計画にそって、保育実習（施設）にむけた準備をしましょう。 ・実習終了後の、事後レポートを作成し、提出しましょう。	
評価方法	1.レポート70（％） 2.授業への積極的参加と課題提出30(％)	評価方法はG P A制度となります 1 0 0～9 0 点 S 8 9～8 0 点 A 7 9～7 0 点 B 6 9～6 0 点 C 5 9 点以下 F 不合格
受講生への メッセージ	保育所の実際を理解し、視野を広げる実習となるよう準備を進めていってください。	
【使用教科書・教材・参考書】 適宜、プリントを配布します。		

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	幼児の特別な支援 (Childcare for disabled children)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	兒玉 和志
学科	こども保育科	授業 形態	講義	総時間	15	開講区分	科目終末試験 レポート科目
コース	昼間Ⅰ部			(単位)	1	曜日・時限	

【授業の学習内容】

<設題1>

以下の発達障害の中から一つ選びその特徴を説明しなさい。また、その発達障害を抱えた幼児への教育に関して教師が配慮する事項について述べなさい。（自閉症スペクトラム症、ADHD、LD、発達性強調運動障害）

<設題2>

以下の中から一つの障害種を選択し、その障害種を抱えた幼児の発達的特徴と生活上の困難について述べなさい。

(視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、難病・病弱)

※実務者経験：2014年4月より現在に至るまでNPO法人見晴台学園大学に客員共同研究員として所属する。

主業務は発達障がいのある青年たちへの教育機会の保障を目的とした学習支援の実践と研究。

【到達目標】

- ・インクルーシブ教育を含む特別支援教育に関する理念や制度の仕組みを理解する
- ・特別の支援を必要とする幼児（知的障害、発達障害、肢体不自由、視覚障害、聴覚障害等）の心身の発達と心理的特性および学習の家庭を理解する
- ・特別の支援を必要とする幼児への支援の方法について例示することができる
- ・個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法について理解する
- ・関係機関、家庭と連携して支援体制を構築することの必要性を理解する

授業計画・内容

1回目	<レポート作成上のアドバイス>
2回目	レポート作成に当たっては、以下のような学習をしてください。
3回目	①テキストおよび参考図書を熟読すること。
4回目	②分からない所は、テキストに記載している参考文献を参照し、理解を深めること。
5回目	③テキストのみを文献とするのではなく、他の文書に書かれている内容と比較検討して、レポートに記載する内容を決めておくこと。
6回目	④インターネットの情報からの引用は、内容の信頼性を吟味したうえで行うこと。
7回目	<科目終末試験対策のアドバイス>
8回目	科目終末試験は、「科目終末試験問題集」から出題します。事前にテキスト、参考文献をもとに回答をまとめておくこと。
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	

準備学習 時間外学習	・テキストだけでなく、様々な文献を読み、障がいに関する理解を深めておくこと。 ・ニュースやテレビ番組などで取り上げられる、障がいや障がい児への支援に関する最新情報などを積極的に活用すること
---------------	---

評価方法	レポート、科目終末試験60点以上で合格	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
------	---------------------	---	--

受講生への メッセージ	科目終末試験に関しては、設題の意図に沿った回答をしているかという点と、説得力のある自分なりの考えを記述できているかをもとに評価します。
----------------	---

【使用教科書・教材・参考書】

テキスト：よくわかる障害児保育（尾崎康子、小林真、水内豊和、阿部美穂子編 ミネルヴァ書房）

参考文献：幼稚園教育要項・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本（H29年告示）

名古屋医健スポーツ専門学校 2024年度 シラバス

科目名 (英)	教育相談 (Education consultation)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	松永 侑大
学科	こども保育科	授業	講義	総時間	15	開講区分	科目終末試験
コース	昼間Ⅰ部	形態		(単位)	1	曜日・時限	レポート科目

【授業の学習内容】

本授業では、保育士に必要な心理学および臨床心理学の基礎的知識と相談活動の具体的方法を詳細な事例を用いて講義する。また座学に加えて、保護者による相談場面を想定したロールプレイ実習を行うことで、保護者対応における傾聴スキルを習得する。

実務者経験：2021年に臨床心理士、2022年に公認心理師を取得。2021年より児童発達支援事業所にて発達障害を抱える子どもに対する小集団での支援、保護者支援、職員間のコンサルテーションを務めている。

【到達目標】

- ・ 幼児理解の意義、方法について理解し、幼児理解と発達・学びとの関連性を理解する。
- ・ 幼児理解を個と集団の視点から理解する。
- ・ 幼児教育における教育相談の意義を理解し、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解する。
- ・ カウンセリングマインドの必要性を理解し、カウンセリングの基礎的な知識・技法を理解する。
- ・ 幼児の不適応や問題行動の意味並びに幼児の発するシグナルに気づき把握する方法を理解する。
- ・ 保護者へのカウンセリングマインドを生かした子育て支援に関して理解する。
- ・ 教育相談を勤めるための組織整備や多職種との連携に関して理解する。

授業計画・内容

1回目	<レポート作成上のアドバイス>		
2回目	レポート作成に当たり、次のような学習をしてください。		
3回目	①テキストを熟読すること		
4回目	②分からないところは、各自参考文献を調べ、理解すること。		
5回目	③テキストの内容について、自分の経験を振り返って結びつけながら、理解を深めていくこと。		
6回目	※レポートはテキストに写すだけではなく、必ず自分の考えも入れてまとめてください。		
7回目	<科目終末試験対策のアドバイス>		
8回目	科目終末試験は、「科目終末試験問題集」から出題します。事前にテキストをもとに学習しておいてください。		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			

準備学習 時間外学習			
---------------	--	--	--

評価方法	レポート、科目終末試験60 点以上で合格	評価方法はG P A制度となります 1 0 0 ～ 9 0 点 S 8 9 ～ 8 0 点 A 7 9 ～ 7 0 点 B 6 9 ～ 6 0 点 C 5 9 点以下 F 不合格	
------	-------------------------	---	--

受講生への メッセージ			
----------------	--	--	--

【使用教科書・教材・参考書】

テキスト：「子育て支援カウンセリング～幼稚園・保育所で行う保護者の心のサポート～」石川洋子編集 図書文化2008年

参考文献：幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本
(内閣府 文部科学省 厚生労働省) H29年告示

名古屋医健スポーツ専門学校 2024年度 シラバス

科目名 (英)	子どもの食と栄養 (Food and Nutrition of Children)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	武田 康代
学科	こども保育科	授業 形態	講義 または演 習	総時間	15	開講区分	レポート・科目終末試験
コース	昼間Ⅰ部			(単位)	1	曜日・時限	
【授業の学習内容】							
小児期における栄養や食生活の重要性を理解し、起こりやすい食行動上の問題点を挙げ、その対応について考える。							
*実務者経験：1985年4月～1989年3月まで知的障害者更生施設 管理栄養士。2012年～高齢者ディサービス・多機能型事業所（生活介護・児童発達支援事業）チーフマネージャー。							
【到達目標】							
子どもの発達・発育の特性、栄養に関する基本的な知識を踏まえ、小児期における心身の発達段階に応じた栄養法、食生活、集団給食（保育所給食）、食育の重要性を説明できる。							

授業計画・内容			
1回目	〈レポート作成上のアドバイス〉		
2回目	レポート課題・単位認定試験出題課題を中心に、テキスト・参考図書だけでなくより広い視野から「子どもの食と栄養」について深く理解する。普段からあらゆる視点で子どもの食と栄養について興味関心を持ち、向上心を持って高い資質を身につける。テキスト及び参考文献をよく読み、学習上の留意点をまとめた上で、個々の出題に対する回答を作成すること。		
3回目			
4回目			
5回目			
6回目			
7回目	〈科目終末試験対策のアドバイス〉		
8回目	初回ガイダンスに食育演習ノートを配布する。授業内容のポイントをおさえ食育演習ノートに随時書き込み、充実したノート作成を心がける。自宅にて「5歳児のお弁当」を作成し、演習レポートとする。普段から、調理をする機会を増やし、実践力を身につける。食育の実践のための基本的知識の理解と実践法について説明することができるようになる。評価方法は、食育演習ノート40％ 食育媒体作20％ 筆記試験40％ とする。		
9回目			
10回目			
評価方法	レポート、科目終末試験60点以上で合格	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生へのメッセージ	栄養、食品、食育に関するニュースや新聞記事に関心を持つこと。自分らしい食生活を実現し、健やかな食文化の担い手になることを心がける。各授業回における事前学修や授業後の振り返りに関して、積極的に取り組むこと。		
【使用教科書・教材・参考書】			
「新 保育ライブラリ 子どもの食と栄養」 北大路書房			